

公 開  
資 料 3

第 3 9 7 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和8年2月27日

日 本 学 術 会 議

## Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
<b>1. 規則関係</b>						
提案 1	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」の一部を改正すること	国際委員会委員長	3	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」について、以下を変更する必要があるため。 ・団体加入について 加入申請書・調査票の様式変更 ・代表派遣について 会議調書・会議出席報告書の様式変更  ※国際委員会 2月24日承認	日比谷副会長	—
<b>2. 提言等関係</b>						
提案 2	提言「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	別冊	食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※科学的助言等対応委員会査読	食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会堀正敏委員長	内規2条5項
<b>3. 協力学術研究団体関係</b>						
提案 3	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	7	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①先端芸術音楽創作学会 ②日本保育ソーシャルワーク学会 ③日本宣教学会 ④大学入試学会  ※令和8年2月27日現在2,212団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
<b>4. 国際関係</b>						
提案 4	令和8年度代表派遣について (1)代表派遣実施計画の決定 (2)実施計画に基づく4-9月期の会議派遣者の決定	会長	8	令和8年度代表派遣について、代表派遣実施計画の決定をするとともに、実施計画に基づき4-9月期の会議派遣者を決定する必要があるため。  ※国際委員会 2月24日承認	日比谷副会長	(1)国際交流事業に関する内規18条 (2)同内規19条2項
提案 5	令和9年度共同主催国際会議候補の決定について	会長	16	共同主催の申請があった令和9年度開催の国際会議について、国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、候補として決定したい。  ※国際委員会 2月24日承認、同国際会議主催等検討分科会 2月10日決定	日比谷副会長	国際学術交流事業に関する内規34条第1項

提案6	令和8年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を決定すること	会長	17	令和8年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定する必要があるため。  ※国際委員会2月24日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会2月6日決定	日比谷副会長	国際学術交流事業に関する内規56条
-----	--	----	----	--	--------	-------------------

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等  
【令和8年度第1四半期】(追加)

提案7	公開シンポジウム「四季の環境変化を生き抜く生物の知恵と時間の科学 ～体内時計と季節～」の開催について	心理学・教育学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	19	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同生物リズム分科会 日時：令和8年4月12日(日)13:30～16:30 場所：日本学術会議講堂(東京都港区六本木)(ハイブリッド開催) ※第二部承認	—	内規別表第2
-----	--	---	----	---	---	--------

6. その他のシンポジウム等

提案8	公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第3回」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	22	主催：健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会 日時：令和8年5月9日(土)13:30～16:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「健康増進と安全性のための食品・栄養科学：日韓国際シンポジウム」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	25	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同IUNS分科会 日時：令和8年5月16日(土)9:00～13:00 場所：サンポートホール高松4F第1小ホール及び小ホール前ロビー(香川県高松市) ※第二部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「若手アカデミー：15年間の活動とこれからの展望」の開催について	若手アカデミー	27	主催：若手アカデミー 日時：令和8年6月22日(月)13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂(東京都港区六本木)(ハイブリッド開催)	—	内規別表第2

7. 後援

提案11	国内会議の後援をすること	会長	30	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。  ・2026年度「土と肥料」の講演会 ・2026年URSI日本電波科学会議 ・特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第44回年次大会 ・2025年度衝撃波シンポジウム	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	---	-----------------

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は3月23日(月)10:00～開催予定。					32

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前																				
<p>様式第1（第6条関係）</p> <p>（略）</p> <p>1 ～ 2 （略）</p> <p>3 国内における国際学術団体への対応状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">過去 10 年間</td> <td style="width: 85%;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本からの参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	（略）		過去 10 年間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本からの参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	総会への 対応実績	（略）	日本からの参加者	（略）	（略）		<p>様式第1（第6条関係）</p> <p>（略）</p> <p>1 ～ 2 （略）</p> <p>3 国内における国際学術団体への対応状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">過去 10 年間</td> <td style="width: 85%;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本人参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	（略）		過去 10 年間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本人参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	総会への 対応実績	（略）	日本人参加者	（略）	（略）	
（略）																					
過去 10 年間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本からの参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	総会への 対応実績	（略）	日本からの参加者	（略）																
総会への 対応実績	（略）																				
日本からの参加者	（略）																				
（略）																					
（略）																					
過去 10 年間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">総会への 対応実績</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本人参加者</td> <td style="text-align: center;">（略）</td> </tr> </table>	総会への 対応実績	（略）	日本人参加者	（略）																
総会への 対応実績	（略）																				
日本人参加者	（略）																				
（略）																					
<p>4 ～ 5 （略）</p> <p>様式第2（第12条関係）</p> <p style="text-align: center;">加入国際学術団体に関する調査票</p> <p>1 国際学術団体活動状況（内規第11条 活動報告）</p>	<p>4 ～ 5 （略）</p> <p>様式第2（第12条関係）</p> <p style="text-align: center;">加入国際学術団体に関する調査票</p> <p>1 国際学術団体活動状況（内規第11条 活動報告）</p>																				

団体名	(略)
国際学術団体の設立目的	(略)
日本からの役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて	(略)
2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)	
(略)	
日本からの役員立候補等の予定について	(略)
(略)	
3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)	
(略)	
上記会議等への日本からの参加・出席状況及び予定	(略)
国際学術団体における日本からの役員等への就任状況 (過去 5 年)	(略)
(略)	

団体名	(略)
(新規設置)	(略)
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて	(略)
2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)	
(略)	
日本人の役員立候補等の予定について	(略)
(略)	
3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)	
(略)	
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	(略)
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)	(略)
(略)	

4 国際學術団体に関する基礎的事項（内規第3条、4条、5条）

(略)		
内規第3 (国際學術団体の要件関係)	(略)	
	加入国数及び 主要な各国代 表会員を10記載	(略) ・各国代表会員名(団体名を記載)／国 名
そ の 他	国内関係学協 会(主要10団 体)を記載	

様式第3（第16条関係）

(略)

(略)		
母体機 関	(略)	
	日本からの 役員	(略)
(略)		
会 議 参 加	(略)	
	日本からの参加 者数	

4 国際學術団体に関する基礎的事項（内規第3条、4条、5条）

(略)		
内規第3 (国際學術団体の要件関係)	(略)	
	加入国数及び 主要な各国代 表会員を10記載	(略) ・各国代表会員名／国名
(新規設置)		

様式第3（第16条関係）

(略)

(略)		
母体機 関	(略)	
	日本人 役員	(略)
(略)		
会 議 参 加	(略)	
	日本人参加者数	

状況	日本からの参加者（代表者）氏名		状況	日本人参加者（代表者）氏名	
(略)			(略)		
様式第7（第25条関係）			様式第7（第25条関係）		
(略)			(略)		
3 会議の概要			3 会議の概要		
(1) ～ (2) (略)			(1) ～ (2) (略)		
(6) 参加状況（参加国名・数、参加者数、 <u>日本からの参加者</u> の氏名・職名・派遣機関）			(6) 参加状況（参加国名・数、参加者数、 <u>日本人参加者</u> の氏名・職名・派遣機関）		
(7) (略)			(7) (略)		
4 会議の学術的内容			4 会議の学術的内容		
(1) (略)			(1) (略)		
(2) 提出論文（ <u>日本からの提出分、日本以外からの提出分</u> ）			(2) 提出論文（ <u>日本人、日本人以外</u> ）		
(3) ～ (4) (略)			(3) ～ (4) (略)		
5 ～ 10 (略)			5 ～ 10 (略)		

附 則（令和〇年〇月〇日日本学術会議第〇〇〇回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	<p>先端芸術音楽創作学会 (<a href="https://jssa.info/">https://jssa.info/</a>)</p>	<p>本団体は、コンピューター音楽を主体とする先端芸術音楽の創作を対象とした研究を促進するとともに、会員相互の交流及び国際交流をはかり、学術文化と芸術文化の発展に寄与することを目的とするものである。</p>
2	<p>日本保育ソーシャルワーク学会 (<a href="https://jarccre.jimdown.com/">https://jarccre.jimdown.com/</a>)</p>	<p>本団体は、保育ソーシャルワークの発展を期し、保育ソーシャルワークに関する研究及び交流を図り、もって、子どもと家庭の幸福の実現に資することを目的とするものである。</p>
3	<p>日本宣教学会 (<a href="https://missiology.jp/">https://missiology.jp/</a>)</p>	<p>本団体は、1) キリスト教会の宣教に関する神学的、歴史的、社会的、実践的な学問的研究を促進する。2) 宣教学の学問を他の学問分野と関係づけ、宣教学と関連性のある活動並びに研究に従事している個人や団体との関係を築き共同活動や交流を深める。3) 宣教学の研究者間、および他の研究者あるいは研究機関、さらには、宣教に関わる関係者すべてに向けて情報の交換を促進し、キリスト教宣教の学問的、実際的研究の伝達、および出版を推進する。4) 世界の宣教学会との交流を深め、国際的に共有する宣教の課題を紹介し、さらに日本から世界への発信を促進する。上記(1)～(4)を主たる目的とするものである。</p>
4	<p>大学入試学会 (<a href="https://www.jaruas.jp/">https://www.jaruas.jp/</a>)</p>	<p>本団体は、日本の大学入学者選抜を学問的根拠に裏付けられた制度として発展させるために、大学入試とその関連分野における学際的な研究を推進することを目的とする。</p>

令和8年度代表派遣実施計画（案）

<第1区分>

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	第23回国際土壌科学会議(WCSS)	2026/6/7～2026/6/17	南京及びハルビン (中国)	1
2	第35回国際生物科学連合(IUBS)総会	2026/6/9～2026/6/13	ベンガルール (インド)	1
3	国際経済学協会(IEA)第21回世界大会	2026/6/22～2026/6/26	ベオグラード (セルビア)	1
4	第21回国際農業工学会(CIGR)世界大会 2026	2026/6/24～2026/6/26	トリノ (イタリア)	1
5	国際理論・応用力学連合(IUTAM)会員総会	2026/7/19～2026/7/21	トゥールーズ (フランス)	1
6	第20回国際数学連合(IMU)総会2026及 び国際数学者会議2026	2026/7/19～2026/7/30	ニューヨーク及び フィラデルフィア (アメリカ)	1
7	宇宙空間研究委員会(COSPAR)第46回科 学総会	2026/8/1～2026/8/9	フローレンス (イタリア)	1
8	第39回南極研究科学委員会(SCAR)科学 総会及び代表者会議等	2026/8/8～2026/8/19	オスロ (ノルウェー)	1
9	国際結晶学連合(IUCr)総会等	2026/8/11～2026/8/18	カルガリー (カナダ)	1
10	第36回国際電波科学連合(URSI)総会等	2026/8/15～2026/8/22	クラクフ (ポーランド)	1
11	第24回国際鉱物学連合(IMA)総会	2026/8/20～2026/8/24	南京 (中国)	1
12	国際歴史学委員会(CISH)創立100周年記念会 議「過去、現在、そして歴史学の未来」	2026/8/26～2026/8/30	ライプツィヒ (ドイツ)	1
13	海洋研究科学委員会(SCOR)年次総会	2026/9/7～2026/9/10	ヘルシンキ (フィンランド)	1
14	第22回国際第四紀学連合(INQUA)大会	2027/1/28～2027/2/3	ラクナウ (インド)	1
				14

<第2区分>

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	第16回アジア地震委員会(ASC)総会	2026/4/25～2026/4/30	タシュケント (ウズベキスタン)	1
2	AASSA-WISE シンポジウム「Women in STEM, Advancing SDGs in Asia」	2026/5/27～2026/5/29	ソウル (韓国)	1
3	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)理事会	2026/5/30～2026/6/5	テッサロニキ (ギリシャ)	1
4	国際地理学連合(IGU)イスタンブール地域大会	2026/8/17～2026/8/21	イスタンブール (トルコ)	1
5	第17回国際大気化学と地球汚染に関する国際委員会(iCACGP)・第19回地球大気科学国際協同研究計画(IGAC)合同科学会議等	2026/9/4～2026/9/11	イラクリオン (ギリシャ)	1
6	「地球力学と地球回転の研究動向に関するシンポジウム」「全球統合測地観測システム(GGOS)テーマ会議」「国際測地学協会(IAG)第9回執行委員会」	2026/9/28～2026/10/3	イエブレ (スウェーデン)	1
7	国際北極科学委員会(IASC)幹事会会合等	2026/10/4～2026/10/7	アークレイリ (アイスランド)	1
8	国際学術会議(ISC)中間会合等	2026/10/19～2026/10/24	北京 (中国)	1
9	国際科学史技術史・科学基礎論連合【科学史部門】(IUHPST/DHST)評議会	2026/12/9	オンライン	1
10	第83回国際地質科学連合(IUGS)理事会	2026/12/11～2026/12/13	未定	1
11	宇宙空間研究委員会(COSPAR)プログラム委員会・科学諮問委員会・理事会	2027/3/14～2027/3/18	未定	1
12	アジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)理事会	未定	未定	1
				12

<第3区分>

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	世界科学フォーラム(WSF)2027 第2回運営委員会	2026年4月頃	イスタンブール (トルコ)	1
2	Gサイエンス学術会議 2026	2026/5/17～2026/5/19	パリ (フランス)	3
3	サイエンス 20(S20)2026 草案検討会議	2026/6/15～2026/6/16	ワシントンD.C (アメリカ)	1
4	第16回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	2026/6/28～2026/7/3	ブレーメン (ドイツ)	2
5	国際宗教学宗教史学会(IAHR)理事会等	2026/9/19～2026/9/25	ブカレスト (ルーマニア)	1
6	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS forum)第22回年次総会若手リーダープログラム	2026/10/3	京都 (日本)	1
7	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS forum)第22回年次総会	2026/10/4～2026/10/6	京都 (日本)	2
8	世界科学フォーラム(WSF)2027	2027年1月頃	未定 (トルコ)	1
9	Gサイエンス学術会議 2027	未定	ワシントンD.C (アメリカ)	1
				13

## 令和8年度代表派遣実施計画に基づく会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和8年度代表派遣実施計画に基づく4-9月期の会議派遣候補者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	第16回アジア地震委員会(ASC)総会	4月25日 ～ 4月30日	タシュケント (ウズベキスタン)	大久保 慎人(※1) — (高知大学教育研究部自然科学系理工学部門准教授)	地球惑星科学委員会 IUGG 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
2	世界科学フォーラム(WSF)2027 第2回運営委員会	4月頃	イスタンブール (トルコ)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会 ISC 等 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
3	G サイエンス学術会議2026	5月17日 ～ 5月19日	パリ (フランス)	光石 衛 会長、第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事/東京大学名誉教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
4	G サイエンス学術会議2026	5月17日 ～ 5月19日	パリ (フランス)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
5	AASSA-WISE シンポジウム 「Women in STEM, Advancing SDGs in Asia」	5月27日 ～ 5月29日	ソウル (韓国)	伊藤 由佳理 第三部会員 (東京大学高等研究所ガブリ数物連携宇宙研究機構副機構長・教授)	国際委員会アジア 学術会議等分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

6	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)理事会	5月30日 ～ 6月5日	テッサロニキ (ギリシャ)	塩川 和夫 連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所所長/教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
7	第23回国際土壌科学会議(WCSS)	6月7日 ～ 6月17日	南京及びハルビン (中国)	犬伏 和之 連携会員 (東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教授/千葉大学名誉教授)	農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
8	第35回国際生物科学連合(IUBS)総会	6月9日 ～ 6月13日	ベンガルール (インド)	西田 治文 連携会員 (中央大学名誉教授)	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUBS 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
9	サイエンス20(S20)2026草案検討会議	6月15日 ～ 6月16日	ワシントンD.C (アメリカ)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
10	国際経済学協会(IEA)第21回世界大会	6月22日 ～ 6月26日	ベオグラード (セルビア)	澤田 康幸 第一部会員 (東京大学大学院経済学研究科経済学部教授)	経済学委員会 IEA 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
11	第21回国際農業工学会(CIGR)世界大会2026	6月24日 ～ 6月26日	トリノ (イタリア)	飯田 訓久 連携会員 (京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻教授)	食料科学委員会・農学委員会合同 CIGR 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

12	第16回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	6月28日 ～ 7月3日	ブレーメン (ドイツ)	松山 亮太(※1) — (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門任期付研究員)	若手アカデミー	・派遣者の決定 ※現地出席予定
13	第16回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	6月28日 ～ 7月3日	ブレーメン (ドイツ)	松本 大亮(※1) — (東京都医学総合研究所主任研究員)	若手アカデミー	・派遣者の決定 ※現地出席予定
14	国際理論・応用力学連合(IUTAM)会員総会	7月19日 ～ 7月21日	トゥールーズ (フランス)	荒木 稚子 連携会員 (東京科学大学工学院機械系教授)	機械工学委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
15	第20回国際数学連合(IMU)総会2026及び国際数学者会議2026	7月19日 ～ 7月30日	ニューヨーク及び フィラデルフィア (アメリカ)	伊藤 由佳理 第三部会員 (東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構副機構長・教授)	数理科学委員会 IMU分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
16	宇宙空間研究委員会(COSPAR)第46回科学総会	8月1日 ～ 8月9日	フローレンス (イタリア)	鈴木 庸平(※1) — (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻准教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
17	第39回南極研究科学委員会(SCAR)科学総会及び代表者会議等	8月8日 ～ 8月19日	オスロ (ノルウェー)	中村 卓司 第三部会員 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

18	国際結晶学連合(IUCr)総会等	8月11日 ～ 8月18日	カルガリー (カナダ)	杉本 邦久(※1) — (近畿大学理工学部理学科化学コース教授)	化学委員会 IUCr分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
19	第36回国際電波科学連合(URSI)総会等	8月15日 ～ 8月22日	クラクフ (ポーランド)	八木谷 聡 連携会員 (金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授)	電気電子工学委員会 URSI 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
20	国際地理学連合(IGU)イスタンブール地域大会	8月17日 ～ 8月21日	イスタンブール (トルコ)	鈴木 康弘 連携会員 (名古屋大学減災連携研究センター教授)	地球惑星科学委員会 IGU 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
21	第24回国際鉱物学連合(IMA)総会	8月20日 ～ 8月24日	南京 (中国)	辻森 樹(※1) — (東北大学理学研究科教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
22	国際歴史学委員会(CISH)創立100周年記念会議「過去、現在、そして歴史学の未来」	8月26日 ～ 8月30日	ライプツィヒ (ドイツ)	吉澤 誠一郎 第一部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)	史学委員会国際歴史学会議等分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
23	第17回国際大気化学と地球汚染に関する国際委員会(iCACGP)・第19回地球大気科学国際協同研究計画(IGAC)合同科学会議等	9月4日 ～ 9月11日	イラクリオン (ギリシャ)	金谷 有剛 連携会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センターセンター長)	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

24	海洋研究科学委員会 (SCOR)年次総会	9月7日 ～ 9月10日	ヘルシンキ (フィンランド)	張 勁 連携会員 (富山大学副学長／学術研究部 理学系教授)	地球惑星科学委員 会SCOR分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
25	国際宗教学宗教史学会 (IAHR)理事会等	9月19日 ～ 9月25日	ブカレスト (ルーマニア)	藤原 聖子 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研 究科教授)	哲学委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
26	「地球力学と地球回転の研 究動向に関するシンポジウ ム」「全球統合測地観測シ ステム(GGOS)テーマ会議」 「国際測地学協会(IAG)第 9回執行委員会」	9月28日 ～ 10月3日	イエブレ (スウェーデン)	古屋 正人 連携会員 (北海道大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門教授)	地球惑星科学委員 会 IUGG 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
27	アジア科学アカデミー・科 学協会連合(AASSA)理事会	未定	未定	佐竹 健治 第三部会員 (東京大学名誉教授)	国際委員会アジア 学術会議等分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

(注)

(※1) 当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする。

# 令和9年度共同主催国際会議候補一覧

提案 5

## ○承認する8件(国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認)

No	会議名	主催団体	母体団体	期間	場所	参加予定者数 (全体)	参加予定者数 (国外)	参加予定者数 (国内)	参加予定国・ 地域数	間隔
1	北極科学サミット週間2027	国際北極科学委員会(IASC)、海洋研究開発機構、北海道大学、国立極地研究所、函館市、北極環境研究コンソーシアム	国際北極科学委員会	R9.4.11-20	北海道 (函館市民会館及び函館アリーナ)	800人	600人	200人	40カ国・地域	毎年 [日本開催:12年振り2回目]
2	第60回太平洋小児外科学会学術集会	太平洋小児外科学会	太平洋小児外科学会	R9.4.18-22	沖縄 (ヒルトン沖縄北谷リゾート)	400人	250人	150人	23カ国・地域	毎年 [日本開催:9年振り7回目]
3	プラネタリーヘルス国際会議2027	プラネタリーヘルスアライアンス、プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ	プラネタリーヘルスアライアンス	R9.6.8-11	東京 (東京大学)	600人	200人	400人	60カ国・地域	18か月ごと [日本開催:初]
4	2027年IEEEアンテナ伝搬国際シンポジウム及びJNC-USNC-URSI電波科学会議	一般社団法人電子情報通信学会、IEEEアンテナ伝搬ソサイエティ、URSI米国国内委員会	米国電気電子学会、国際電波科学連合	R9.6.20-25	京都 (国立京都国際会館)	3,000人	2,250人	750人	60カ国・地域	毎年 [日本開催:初]
5	第12回国際小児内分泌学会	国際小児内分泌学コンソーシアム、一般社団法人日本小児内分泌学会	国際小児内分泌学コンソーシアム	R9.9.23-26	神奈川 (バシフィコ横浜)	2,000人	1,200人	800人	57カ国・地域	4年ごと [日本開催:初]
6	第14回国際DOHaD学会学術集会	一般社団法人日本DOHaD学会	国際DOHaD学会	R9.10.17-20	静岡 (アクティシティ浜松)	800人	500人	300人	45カ国・地域	2年ごと [日本開催:初]
7	第13回国際腫瘍循環器学会学術集会	一般社団法人日本腫瘍循環器学会、国際腫瘍循環器学会	国際腫瘍循環器学会	R9.10.22-24	東京 (東京大学及び順天堂大学)	700人	400人	300人	30カ国・地域	毎年 [日本開催:初]
8	国際婦人科癌学会2027年次世界会議	公益社団法人日本婦人科腫瘍学会、国際婦人科癌学会	国際婦人科癌学会	R9.11.3-6	東京 (東京国際フォーラム)	4,000人	1,500人	2,500人	80カ国・地域	当初2年ごと、2019年以降毎年 [日本開催:9年振り3回目]

令和 8 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

（ 令 和 8 年 月 日 ）  
日本学術会議第397回幹事会決定

国際学術プログラムであるフューチャー・アースの推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和 8 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を下記のとおり定める。

記

フューチャー・アースにおいては、国際事務局の一部として機能している日本ハブに対し、日本学術会議がその主要支持機関として関わっていること、また、日本学術会議連携会員が国際事務局日本ハブ副事務局長を務めていることから、令和 8 年度の内規第55条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は以下の考えに基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である総会（Assembly）、評議会（GC: Governing Council）及び国際事務局が行う会議へ国際事務局日本ハブ副事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、オンライン開催を含め、総会は 1 回程度、GC は 4 回程度、国際事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第 2 区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際事務局が行う会議へ国際事務局日本ハブ副事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議の会員等がその推進に携わるグローバル研究ネットワーク（GRNs: Global Research Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第 3 区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際事務局日本ハブ副事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究ネットワーク（GRNs: Global Research Networks）に関する会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和8年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

公開シンポジウム  
「四季の環境変化を生き抜く生物の知恵と時間の科学 ～体内時計と季節～」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同生物リズム分科会
2. 共 催：日本時間生物学会、一般社団法人日本睡眠学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年4月12日（日）13：30～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

私たち人間を含む多くの生き物は「体内時計」を持ち、1日24時間のリズムだけでなく、1年という長い時間のリズムあるいはそれ以外にもさまざまな長さのリズムの影響を受けながら生きていることをご存じでしょうか。

現代社会は空調や照明によって常に快適な環境が維持されていますが、私たちの心身は今もなお、季節の移ろいに敏感に反応しています。「冬季うつ」などはその一例であり、季節の変化と現代的な生活習慣とのミスマッチが、心身の不調を引き起こすことも明らかになってきました。また昨年来、冬眠前のクマが人里に頻繁に出没する事例が大きな話題となっています。これも、エサ不足や温暖化により環境のリズムが変化し、野生動物の冬眠にゆらぎを与えていることの現れと言えるかもしれません。自然界に目を向けると、植物は気温や日長を感知して花を咲かせ、昆虫や動物たちは厳しい冬を乗り越えるために「休眠」や「冬眠」という驚くべき生存戦略を進化させてきました。

本シンポジウムでは、植物、昆虫、哺乳類など多様な生き物が持つ「季節への適応能力」の謎を紐解きます。これら生物の巧みな生存戦略を知ることは、季節感を失いがちな現代社会において、私たちが「いつ、何を食べるべきか」を含め、どのように自然と調和し、健やかに過ごすべきかを考えるヒントになるはずです。生物リズムの

進化や多様性について専門家が分かりやすく解説し、参加者の皆様と一緒に「季節変化と共に生きる未来」について考えます。

9. 次 第：

13:30 開会の挨拶

深田 吉孝（日本学術会議第二部会員／東京大学名誉教授／東京都医学総合研究所客員研究員）

13:35 講演「植物はなぜ季節を知ることができるのか？ ～動けない生き物の生存戦略～」

遠藤 求（日本学術会議連携会員／奈良先端科学技術大学院大学教授）

14:00 講演「虫たちの冬支度 ～小さな脳が操る休眠の巧みな仕組み～」

志賀 向子（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院理学研究科教授）

14:25 講演「動物たちのカレンダー ～ヒトの季節性疾患の謎に迫る～」

吉村 崇（日本学術会議連携会員／名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長／教授）

14:50-15:05 休憩

15:05 講演「季節とライフステージ ～食と健康への活用～」

安尾 しのぶ（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究院教授）

15:30 講演「哺乳類の冬眠の謎 ～過去・現在・未来～」

山口 良文（北海道大学低温科学研究所教授）

16:05 総合討論・質疑応答

講演者全員

16:25 閉会の挨拶

坂田 省吾（日本学術会議第一部会員／新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

## 公開シンポジウム

「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第3回」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本看護系学会協議会
3. 後 援：公益社団法人日本看護科学学会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本地域理学療法学会、一般社団法人日本理学療法学会連合、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、日本NP学会、一般社団法人日本医療情報学会、一般社団法人日本医療・病院管理学会、日本運動疫学会、一般社団法人日本エイズ学会、一般社団法人日本衛生学会、日本衛生動物学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本疫学会、一般社団法人日本学校保健学会、日本健康学会、一般社団法人日本健康教育学会、日本健康支援学会、一般社団法人日本健康相談活動学会、一般社団法人日本口腔衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生看護学会、一般社団法人日本行動医学会、一般社団法人日本国際保健医療学会、日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会）、一般社団法人日本災害医学会、公益社団法人日本産業衛生学会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人日本循環器病予防学会、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本職業・災害医学会、一般社団法人日本女性医学学会、一般社団法人日本性感染症学会、一般社団法人日本地域看護学会、公益社団法人日本母性衛生学会、日本ワクチン学会
4. 日 時：令和8（2026）年5月9日（土）13：30～16：00
5. 場 所：オンライン開催（You Tube 配信を併用）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：  
日本では、2008年をピークに総人口が減少に転じており、現在、年間約60万人減少し、2070年には9,000万人を割り込む。首都圏には人口が流入しており、地方での人口減少に拍車をかけているものの、東京の人口であっても2030年の1,426万人をピークに

減少に転じるものと見込まれている。人口減少と人口偏在が同時に生じている我が国においては、人口動態に適応した医療提供体制の整備が求められる。

これまで、医療提供体制の現状や見通しを検討する際、医療サービス提供者の必要人員数（修了者数や登録者数）がカウントされ、需要に対して供給が追いついているかが評価されてきた。しかし、労働者人口の減少は、特定の専門職の不足や地域偏在を加速させる可能性があり、各専門家の人員数を指標とするのみでは医療提供体制の維持は困難であろう。

また、人口減少・人口偏在は地域のあり方自体を変化させる。厚生労働省が牽引する地域包括ケアシステムの構築はこれに応じるものであるが、システムのデザインは進んでも、人材に関する枠組みは大きく変わっていない。

そこで本分科会では、専門職の垣根を超えた議論を実現するために、医療専門職を「ヘルスケア人材」と呼ぶことを提案する。垣根を超えることで、各専門職の人員数の偏りよりも、人口減少社会における複雑な課題に応じる活動モデルや、共通して持つべき知識や技術、それに応じた教育のあり方、さらには各ヘルスケア人材が自律的かつ柔軟に活動できるあり方を検討できることを期待する。これによって、各専門家の人員数のみでは評価できない、国民が求めるヘルスケア人材のあり方の提案に繋がるであろう。そして、全ての国民がどこにいても必要なときに必要な質と量のヘルスケアサービスが享受できる体制の維持を目指す。

以上を目的として、本分科会では複数回の公開シンポジウムを企画し、実施してきた。第1回の公開シンポジウム（令和7年1月11日開催）では、看護学、医学、理学療法学より、2回目の公開シンポジウム（令和7年9月28日開催）では、看護学、歯学、薬学、介護学の立場から、それぞれの視点から見た人口減少社会の課題と求められる活動を提案し議論した。

そして、今回の第3回の公開シンポジウムでは、人口減少・人口偏在社会の健康課題に対応できるヘルスケア人材の教育のあり方について、看護学、医学、作業療法学の立場より、新たな体制や内容、教授方法等を提案してもらい、その可能性について指定発言者及び参加者とともに議論する。

## 9. 次 第：

13:30 挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長／国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長・理事長特任補佐）

習田 由美子（厚生労働省医政局看護課長）

第1セッション

◇総合司会

坂下 玲子（日本学術会議連携会員／兵庫県立大学副学長）

綿貫 成明（日本学術会議連携会員／国立看護大学校看護学部看護学科老年看護学教授）

13:40 『看護学における多職種連携教育の現在地と課題（仮）』  
亀井 智子（日本学術会議連携会員／聖路加国際大学大学院看護学研究  
科教授）

14:00 『ヘルスケア人材の教養教育の提案（仮）』  
三重野 英子（日本学術会議連携会員／大分大学医学部看護学科教授）  
大久保 暢子（日本学術会議連携会員／聖路加国際大学大学院看護学研  
究科教授）

休憩（10分）（14:20～14:30）

## 第2セッション

14:30 『医学教育からみたヘルスケア人材の育成（仮）』  
野出 孝一（日本学術会議第二部会員／佐賀大学学長）

14:50 『作業療法からみたヘルスケア人材の育成（仮）』  
伊藤 祐子（東京都立大学健康福祉学部作業療法学科長）

## 総合討論 司会

坂下 玲子（日本学術会議連携会員／兵庫県立大学副学長）

綿貫 成明（日本学術会議連携会員／国立看護大学校看護学部看護学科老年看護学  
教授）

## 15:10 指定発言

松本 晴樹（文部科学省高等教育局医学教育課企画官）

### 登壇者

亀井 智子（日本学術会議連携会員／聖路加国際大学大学院看護学研究  
科教授）

三重野 英子（日本学術会議連携会員／大分大学医学部看護学科教授）

大久保 暢子（日本学術会議連携会員／聖路加国際大学大学院看護学研  
究科教授）

野出 孝一（日本学術会議第二部会員／佐賀大学学長）

伊藤 祐子（東京都立大学健康福祉学部作業療法学科長）

真田 弘美（日本学術会議連携会員／石川県立看護大学学長）

## 15:50 まとめと閉会の挨拶

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員／東京都立大学副学長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「健康増進と安全性のための食品・栄養科学：日韓国際シンポジウム」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同  
IUNS 分科会
2. 共 催：公益社団法人日本栄養・食糧学会（JSNFS）、韓国食品栄養科学会（KFN）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 5 月 16 日（土）9：00 ～ 13：00
5. 場 所：サンポートホール高松 4 F 第 1 小ホール及び小ホール前ロビー  
（香川県高松市サンポート 2-1）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

国際栄養科学連合（IUNS: International Union of Nutritional Sciences）は、1948 年に、栄養科学における研究並びに学術情報の交換をすることを主な目的として設立された組織であり、約 4 年に 1 度、国際栄養学会議（ICN: International Congress of Nutrition）を開催している。日本学術会議の IUNS 分科会は、IUNS の日本の窓口であり、2022 年 12 月には、日本学術会議の主催で、第 22 回国際栄養学会議（22nd IUNS-ICN）を東京で開催した。

一方、日本栄養・食糧学会と韓国食品栄養科学会は、毎年それぞれの学会に若手研究者を招聘してシンポジウムを開催する交流を続けており、共にアジアで活動する IUNS 参加国としての学術情報交換、人的交流の場となっている。

この度、IUNS 分科会では、第 80 回日本栄養・食糧学会の会期に合わせ、韓国食品栄養科学会及び日本栄養・食糧学会との共同主催により、日本及び韓国で活躍する若手研究者を招き、食品の健康増進機能と安全性をテーマとしたシンポジウムを開催する。

本シンポジウムを通じて、両国の若手研究者に、国際会議におけるシンポジウム講演の機会を提供するとともに、食品・栄養科学分野の最新の知見を研究者のみならず一般の方々とも共有する場としたい。

9. 次 第：（使用言語は英語）

モデレーター：

菅原 達也（京都大学農学研究科教授／公益社団法人日本栄養・食糧学会国際交流委員会委員長）

座長：

Youngseung Lee（檀国大学校／韓国食品栄養科学会国際交流委員長）

熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部特任教授）

9:00 開会の辞

芦田 均（武庫川女子大学食物栄養科学部教授／公益社団法人日本栄養・食糧学会会長）

挨拶

Sung-Soo Park（済州大学校／韓国食品栄養科学会会長）

竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学科教授）

9:15 「生涯の健康におけるビタミンDの役割：健康増進と疾病予防について」

栗原 晶子（大阪公立大学大学院生活科学研究科教授）

9:45 「トコトリエノールの癌抑制効果とその作用機序」

永塚 貴弘（東北大学大学院農学研究科准教授）

10:20 「高塩分にもかかわらず、伝統的韓国発酵食“醬 K-jang”は、腸-腎軸を介して肥満誘発性の炎症性腎障害を改善する」

Anna Han（全北大学校）

10:50 「AI 主導の迅速な病原体検出：ディープラーニングによる食品安全の変革」

Hyeon Woo Park（高麗大学校）

11:25 閉会の辞

曾根 博仁（新潟大学院医歯学総合研究科／公益社団法人日本栄養・食糧学会副会長）

12:00～13:00 登壇者及び一般参加者による交流会（※参加費無料）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「若手アカデミー：15年間の活動とこれからの展望」  
の開催について

1. 主 催：若手アカデミー
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月22日（月）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）  
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

若手アカデミーは、2011年の設立（2013年法的根拠整備）から5期15年間にわたり活動を継続してきた。若手アカデミーには、日本学術会議の若手メンバー、学界における公的若手組織、国際若手学者ネットワークにおける日本代表、あるいは国内若手世代における学者組織といった多様な観点での活動がある。若手組織ゆえに参画メンバーが極めて流動的であることも特徴の一つであり、これは組織の新陳代謝の観点では望ましい一方、その活動履歴の蓄積と継承が構造的に困難であるという難点でもある。

そこで本シンポジウムでは、アルムナイを含めた若手アカデミーメンバーから15年間の活動を紹介し広く共有するとともに、法人化後の若手アカデミーの展望を議論する。

9. 次 第：

挨拶

13:00 挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長／日本学術会議第三部会員／国立研究  
開発法人国立環境研究所理事）

内閣府日本学術会議担当大臣等（調整中）

第1セッション「若手アカデミー活動の共有」

- 13:20 『若手アカデミーの成立経緯と黎明』  
駒井 章治（東京国際工科専門職大学教授）
- 13:40 『学術界の若手として1：スカイプ導入など先進的な取り組み』  
住井 英二郎（日本学術会議連携会員／東北大学大学院情報科学研究  
科教授）
- 13:55 『学術界の若手として2：シニアとの接続』  
高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員／中央大学大学院文学研究科心理  
学専攻教授）
- 14:10 『国際若手学者ネットワークでの日本代表1：GYAを中心に』  
新福 洋子（日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科  
教授）
- 14:25 『国際若手学者ネットワークでの日本代表2：その他の活動』  
門田 有希（日本学術会議連携会員／若手アカデミー幹事／岡山大学  
学術研究院環境生命自然科学学域教授）
- 14:40 『国内若手世代の学術界人として1：政官との交流』  
岸村 顕広（日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院准教  
授）
- 14:55 『国内若手世代の学術界人として2：産業界や地域活動との交流』  
南澤 孝太（日本学術会議連携会員／若手アカデミー幹事／慶應義塾  
大学大学院メディアデザイン研究科教授）  
休憩（10分）（15：10～15：20）

第2セッション「これからの若手アカデミーへの期待」

◇パネルディスカッション1 若手アカデミーアルムナイからの期待（15：20～  
16：00）

- 司会 標葉 隆馬（日本学術会議連携会員／若手アカデミー副代表／慶  
應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授）
- 狩野 光伸（日本学術会議第二部会員／岡山大学学術研究院ヘルスシス  
テム統合科学学域教授）
- 中西 和嘉（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物質・材料研究  
機構主幹研究員）
- 松中 学（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院法学研究科教授）
- 杉本 舞（日本学術会議連携会員／若手アカデミー／関西大学社会学部  
教授）

◇パネルディスカッション2 若手アカデミー外からの期待  
（16：00～16：50）

- 司会 木村 草太（日本学術会議連携会員／若手アカデミー／東京都立大学法学部  
教授）  
若手アカデミー世代 研究者A（大学教授に打診中）

若手アカデミー世代 研究者 B (大学助教に打診中)  
若手アカデミー世代 経済界人 C (経団連に人選打診中)  
若手アカデミー世代 政界人 D (挨拶対応者とともに人選・打診中)

挨拶

16:50 小野 悠 (日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学  
大学大学院工学研究科准教授)

10. 関係部の承認の有無：若手アカデミーが主催するため、部の承認は不要

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

## ○国内会議の後援（4件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 2026年度「土と肥料」の講演会

主催：一般社団法人日本土壌肥料学会

期間：令和8年5月23日（土）

場所：東京大学 中島董一郎記念ホール

参加予定者数：約100名

申請者：一般社団法人日本土壌肥料学会 会長 信濃 卓郎

審議付託先：第二部

**審議付託結果：第二部承認**

2. 2026年URSI日本電波科学会議

主催：一般社団法人電子情報通信学会

技術共催：国際電波科学連合（URSI）

期間：令和8年3月2日（月）～3月3日（火）

場所：電気通信大学

参加予定者数：約150名

申請者：2026年URSI日本電波科学会議

大会委員長・実行委員会委員長 八木谷 聡

審議付託先：第三部

**審議付託結果：第三部承認**

3. 特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第44回年次大会

主催：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会

期間：令和8年6月20日（土）～6月21日（日）

場所：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）

参加予定者数：約2,200名

申請者：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会 第44回年次大会

大会長 鳥井 優樹

審議付託先：第二部

**審議付託結果：第二部承認**

#### 4. 2025年度衝撃波シンポジウム

主催：日本衝撃波研究会

共催：宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、東北大学流体科学研究所、  
名古屋大学大学院工学研究科

期間：令和8年3月4日（水）～3月6日（金）

場所：名古屋大学 IB 電子情報館

参加予定者数：約 250 名

申請者：日本衝撃波研究会 会長 藤田 和央

2025年度衝撃波シンポジウム実行委員会 委員長 笠原 次郎

審議付託先：第三部

**審議付託結果：第三部承認**

## ○今後の予定

## ●幹事会

第398回幹事会	令和8年3月23日(月)	10:00から
第399回幹事会	第196回総会期間中に開催予定	13:30から
第400回幹事会	令和8年5月29日(金)	13:30から
第401回幹事会	令和8年6月26日(金)	13:30から
第402回幹事会	令和8年7月17日(金)	13:30から
第403回幹事会	令和8年7月31日(金)	13:30から
第404回幹事会	令和8年8月21日(金)	13:30から
第405回幹事会	令和8年9月3日(木)	13:30から
第406回幹事会	令和8年9月18日(金)	13:30から

## ●総会

第196回総会	令和8年4月9日(木)～11日(土)
第197回総会	令和8年8月6日(木)～7日(金)